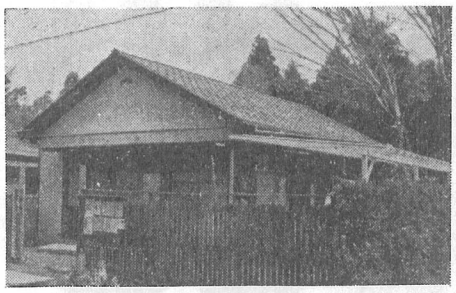
十年一昔（その七）

——〈大総駐在所界隈〉——



両総用水第二揚水機場を迂回して、振子坂の急坂を上りきると正面に集落が開けて来ます。本紙で昨年の五月に「ふる里の散歩路」として紹介した旧大総村役場の所在地です。町村合併の頃を知っている人々は「随分変ったものだ」と、きっと驚かれることと思います。まず、右手に見える近代的な建物は大総郵便局です。小学校の向側に在ったのを、つい先年此処に移したのです。小学校といえば、此の庭には神社等でも余り見かけない様な楠の大木があって夏は格好の日陰になりますが冬は陽当りを妨げる、というので「いっそ切倒しては、」という話もあったのですが、日露戦争の記念樹である、ということと、或年桜の枝の太いのを切り落していたのを見かけた当時の町長さんから「大事な庭木を切るとは、まことにけしからん！」と校長先生が大目玉を頂戴したこと等からそのままになっていたということですが、いま見ますと、大分程裁よく枝が払われとてもすがすがしい風情になっています。

小学校の前を通り過ぎますと郵便局や学校と同じ並びに成東警察署大総巡査駐在所の真新らしい建物が在ります。この駐在所も、元は、筋向いの左側に建っていたものです——生垣を廻らし、年に一度位はコールタールを塗装してサビ止めをしていたトタン屋根、欅の大樹が周囲で天を掃うようにそそり立ち、秋も深まってくると、隣接する神社の境内にある銀杏と共に枯葉が散り注ぎ、黒い筈の駐在所の屋根ほ何時しか黄一色に覆われ、時には屋根や庭先に銀杏の実が奇妙な香りをただよわせて落ちていた——こんな情景に想出を持つ往時の人々は、今は私有の住宅となっていますが、場所も形も殆んど変っていない旧駐在所の前を通る時、きっと一度はふり返って見ることでしょう。町村合併後、元役場庁舎は公民館大総分館として花を咲かせることになりました。

交通教室、交通安全指導と公民館活動にも、是非責極的なスケジュールを組んで、地域住民を交通禍から護るように、と要望切なるものがある折柄、その中軸となって指導を担当してもらわなければならない警察官の拠所が、南面の明るい姿に変ったことは、此処十年の大きな進歩として採上げてよいと思います。（写真上は現在、下は約十年前の大総巡査駐在所）

選管委員長に

早川恂氏

江鳩勇治氏が逝去されたことにより、欠員となった委員の補充として嘉瀬源貞氏が、六月十八日付をもって選任されました。選挙管理委員会の陣容は次のとおりです。

委員長　早川　恂　東町

委員長職務代理者　伊藤壮男　北清水

委員　実川正男　寺方

嘉瀬源貞　鳥喰新田

横芝町小唄が誕生

大橋（早川）恂先生により新らしく横芝小唄が誕生しました。去る七月十日の庁舎落成記念の日に、同式場でキングレコードの専属歌手により披露されました。

横芝小唄

作詩　大橋　恂
作曲　細川　潤一
振付　西崎　緑若
キングレコード専属

一、誰にナ 誰に見せよと 栗山川は
　そっと口紅 うす化粧
　桜吹雪の 花かげに〈〈
　嘘ちゃないってば 本当だえ

二、梅はナ 梅はつぶらに 早苗は伸びて
　隣町から 嫁がくる
　親子揃うて 山鳩は〈〈
　ホッと見下す 坂田池
　嘘ちゃないってば 本当だえ

三、古川ナ 古川こがれて 両国までも
　螢追い〈〈 宵あかり
　来いと云うのに また逃げて〈〈
　スイとすすきで 手が切れた
　嘘ちゃないってば 本当だえ

四、貴方ナ 貴方遠山 私は三島
　誓う中台何時までも
　雁野鳥喰 夕暮れて〈〈
　十と三夜の 月を待つ
　嘘ちゃないってば 本当だえ

五、俺らはナ 俺らは九十九里 屋形に生れ
　男度胸の 片しぶき
　千鳥啼く〈〈 砂浜に〈〈
　明日も晴れかよ 夕あかね
　嘘ちゃないってば 本当だえ

六、お出ナ おいで横芝 黄金の町え
　心安らか 暮しよさ
　朝は朝かぜ 夜は夜露〈〈
　笑顔明るい 町づくり
　嘘ちゃないってば 本当だえ

自衛官募集

自衛隊では、陸海空自衛官を募集しています。十八才以上二十五才までの日本人男子なら誰でも応募でき、希望する月に入隊できます。

詳しいことは役場企画課へご相談下さい。